

由利本荘市立東由利中学校



だ い や ま

ふ ふ ん ふ け い ふ ひ ふ は つ
不 憤 不 啓 不 悻 不 発

【学校教育目標】

清らかに たくましく

学校だより No. 35

R5.3.14 (火) 発行

第54期生 晴れやかな旅立ち

3月11日(土)、うららかな春の日が差す中で、来賓に市教育委員会 佐々木綾子様、市議会議員 長沼久利様、PTA会長 小松喜恒様、学校運営協議会長 小松幸円様、多数の保護者の皆様にご臨席いただき、第54回目となる東由利中学校の卒業式が無事挙行されました。

第54期生は12名と人数は少なかったですがその分クラスのまとまりがよく、最後は美しい合唱「群青」を響かせて、東由利中学校を巣立っていきました。

これまで1, 2年生の保護者の皆様や地域の方々にたくさんお世話になったことと思います。卒業生に代わり、これまでのご厚情に感謝いたします。今後も、第54期生を地域の仲間としてお見守りください。



答 辞



寒さの厳しい冬も終わりを迎え、暖かな風が春の息吹を運んでくる季節となりました。桜のつぼみが美しい花を咲かすのを今か今かと待ちわびているのは、まるでこれからの新しい生活を待ち望んでいる私たちのようです。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまな活動が縮小されました。そんな中、私たち第54期卒業生12名がこのようなすばらしい卒業式を迎えることができるようご尽力くださった皆さま、本当にありがとうございます。卒業生一同、感謝してもしきれない思いです。思い返すと小学校の卒業式はコロナウイルスにより、私たちの晴れ姿を家族に見せることのできないものとなってしまう、やりきれない気持ちを残す結果となってしまいました。今度こそこの12人の晴れ姿を家族に見せることができると思うと、本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。

この三年間、私たち12人は多くの経験を積んだかけがえのない時間を過ごしてきました。

私たちが中学生としての一步を踏み出したのは入学式でした。先輩方は小学生のころからは想像もできない程成長しており、私たちもこうなることができるのか不安になりました。入学生代表の言葉を読むためにここに立った自分に向けられた目線に思わずひるんでしまったのを今でも覚えています。そんな入学式を終え、いざ始まった学校生活。先輩方が優しく導いてくださったおかげで、すぐに馴染むことができました。

そんな初々しさの消えぬまま迎えた二年生。新入生を迎え、遂に先輩という立場になりました。いつまでも三年生に頼ってはいけないという厳しい現実と直面するなかでも、クラスは活気と明るさにみちあふれていました。経験したことのないアクシデントにより学校そのものが不安定になった時期もあり、不安のぬぐえない日々もありましたが、仲間と手を取り乗り切ったおかげで、絆がより一層深まった一年になりました。

そしてとうとう迎えた三年生。人生初の壁といっても過言ではない高校受験を控えた年になりました。更には最上級生としての責務もあり、慌ただしい日々を過ごすことになりました。今思えばそんな一年を乗り切ることができたのは、これまで9年間培った絆のおかげだと思います。

三年生としての初仕事といえば、やはり体育祭でしょう。赤青黄の三組に分かれしのぎを削りあいました。どの組も一切手を抜かず練習の時から全員が一つになり挑んでいました。そして、一步も譲らず拮抗した勝負になりました。勝った組も、負けた組も、笑って終わることのできた体育祭になりました。一つだけ心残りなのが、三年間一度も屋外で開催できなかったことです。もし屋外でできていたらまた違った形になったのかと思うと、少し悔しいです。

「all for all～一人一人がヒーロー」をスローガンに掲げ行った東中祭では、学年の垣根を超え全校が一つとなり、それぞれの個性を活かすことができ、過去最高の東中祭にすることができたと思います。準備期間では、それぞれの部門がより良いものを作ろうとアイデアを出し合い、試行錯誤を繰り返していました。演劇では全員が役になりきり、心を込めて演じることができるよう練習しました。互いに改善点を指摘しあい、より完成度の高い演劇を目指しました。その甲斐あって最高の演劇を届けることができました。

そして三年生一番の思い出といえば、もちろん修学旅行です。少し残念なことに東北内での旅行となってしまう落ち込みましたが、いざ行ってみると今までで一番楽しい旅行となりました。行く場所が楽しいかではなく、一緒にいて楽しい人と行けることに価値があると気づきました。馬鹿なことをして笑いあったり、おいしいごはんを一緒に食べたり、思い出の写真を撮ったり…。あの三日間は、忘れることのない最高の思い出です。

そんな楽しい思い出も終了し、少しずつ近づいてくる受験に向け、冬には仲間と協力して勉強し面接の練習をしてきました。今までにない挑戦に苦戦しましたが、仲間や先生、応援してくれる家族に支えられ乗り越えることができました。

これらの思い出、今までの成長は私たちだけではできなかったと思います。

いつも私たちのことを思い親身になって指導してくださった先生方。毎日の授業はもちろん日常から私たちを気にかけて、前向きになれるような楽しい会話、勇気づけられる激励の言葉をかけてくださいました。

私たちが生活しやすい環境を作ってくださった校務員の皆さん。いろいろなことに配慮していただいたおかげで、何不自由なく快適に生活することができました。

栄養士さん、調理員の皆さんにも本当にお世話になりました。おいしい給食を食べることが毎日の楽しみでした。高校では食べられないと思うと寂しいです。

3年間多くの方々のお教えや支えによって楽しく充実した学校生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん、頼りない先輩だったかもしれませんが、部活や行事で協力し、切磋琢磨ができたことを私たちは誇りに思います。こんな私たちについてきてくれて、支えてくれてありがとうございました。これからは、皆さんらしいやり方で東由利中の歴史と伝統を受け継いでいってください。

お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん。15年間、私たちに一番近い存在として寄り添い、励まし、支えてくれてありがとうございました。時には口答えしてしまったり、生意気なことを言ったり、甘ったれた態度を取ってしまったりすることもありました。逆にやり返される時もありましたが、いつどんな時でも私たちの味方になってくれました。温かく見守ってくださったおかげで、今の私たちがいます。生んでくれて、育ててくれて、本当にありがとうございました。これからももう少しだけ甘えさせてください。

最後に、幼い頃からともに歩んできた仲間たち。9年間同じ空間で学び、切磋琢磨してきました。全員で協力すればどんなことでもできる、そう思えるような最高の仲間です。本当にありがとう。これからはそれぞれが自分の未来に向かって進むこととなります。この別れは心惜しいことですが、一人一人がだれにも負けないものを持っている、だからきっと大丈夫です。たとえどれだけ離れていても、何年たっても私たちはかけがえのない大切な仲間です。

私たち12名は、本日この学舎から卒業します。でもそれは悲しいことではなく、未来への一步を踏み出す素晴らしいことのはずです。どんな壁に当たろうとも今までの経験や学んできたことを駆使して必ず乗り越えていくことをここに誓います。

最後になりますが、私たちの愛する母校が、この故郷東由利が、これからも益々発展していくことを祈念して、答辞とさせていただきます。

令和5年3月11日

第54期卒業生代表 小松 海惺